

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-12-2/5）

目 的

本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

1. 『年報』2011年度版の刊行

2012年5月31日付で年報を刊行した。2011年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

2. 『概要』2012年度版の刊行

「概要」2012年度版を刊行した。概要は日英2カ国語により、研究所の組織や活動内容を簡潔かつ写真を多用してわかりやすく紹介している。各ページの構成は概要担当広報委員、編集担当及び各部・センターの概要担当者の協議によって決定し、原稿のとりまとめは、各部・センターの概要担当者が行った。

なお、「年報」「概要」いずれもPDFファイルでウェブサイトに掲載し、活動内容の情報公開に努めている。

3. 『東文研ニュース』の刊行

「東文研ニュース」を年4回（第49号～52号）発行した。基本的には、ウェブサイトに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、記事は活動報告から広報の必要性の高いものを各部・センターが選んでいる。また、「東文研ニュース」の英語版である「Tobunken News Digest」を年2回発行し、外国の関係機関への情報発信の手段とした。一方で、PDFファイルによるウェブサイトでの広報に次第にシフトし、「東文研ニュース」は印刷部数を前年度よりさらに減らすことで費用を節減した。

4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示した。平成24年度は文化財レスキュー活動に関する展示を行い、24年度末に企画情報部による横山大観「山路」に関する展示に更新した。

2012年3月16日～2013年3月27日 「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 この1年」（東京文化財研究所）

2013年3月28日～ 「横山大観《山路》の調査研究」（企画情報部）

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村明子、井上さやか、橘川英規、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、広報委員『年報』：田中淳、各部門年報担当：崎部剛*1、平出秀文*2（研究支援推進部）、津田徹英、皿井舞（以上、企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）、広報委員『概要』：岡田健、各部門概要担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ、高桑いづみ（以上、無形文化遺産部）、犬塚将英（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）、広報委員『ニュース』：宮田繁幸、各部門ニュース担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、山梨絵美子（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

*1 平成24年6月まで *2 平成24年7月から

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、59頁を参照。

平成23年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（⑥企09-12-2/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成23年版は、B5判455ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、皿井舞、河合大介（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約80年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は407号、408号、409号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-12-2/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第7回にあたる本年度は「記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

